平成24年1月三木市教育委員会（定例会）会議録

◇ 日 時

- 1 開 会 平成24年1月18日（水）午後2時10分
- 2 閉 会 平成24年1月18日（水）午後5時00分

◇ 場 所 三木市役所 5階 大会議室

◇ 会 議

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 前回会議録の承認
- 4 審議事項
議案第25号 三木市学校給食調理場の管理運営に関する規則の一部を
改正する規則の制定について
議案第26号 平成23年三木市スポーツ賞被表彰者の決定について
議案第27号 平成23年三木市教育功労賞被顕彰者の決定について
- 5 その他
協議事項12 三木市教育振興基本計画（案）について
- 6 閉 会

◇ 会議に出席した者の職氏名

教育委員	1番	教 育 委 員 長	里 見 俊 實
	2番	教育委員長職務代行者	水 島 慶 子
	3番	教 育 委 員	稻 見 秀 穂
	4番	教 育 委 員	井 口 徹
	5番	教育委員（教育長）	松 本 明 紀
事務局		教 育 部 長	椿 原 豊 勝
		教 育 総 務 課 長	清 水 正 則
		教 育 環 境 整 備 課 長	井 上 博 務
		学 校 教 育 課 長	穂 積 正 則
		文 化 ス ポ ー ツ 振 興 課 長	松 村 正 和
		教 育 セ ン タ ー 所 長	梶 本 佳 照
		図 書 館 長	告 野 幹 也

教育総務課課長補佐
教育総務課主事

稲岡 孝
北村 エミ

傍聴者 0人

◇ 会議内容

1 開 会

里見委員長が、平成24年1月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

2 会議録署名委員の指名

里見委員長が、本日の会議の会議録署名委員に、水島委員長職務代行者と松本教育長を指名した。

3 前回会議録の承認

里見委員長が、平成23年12月定例会の会議録の承認について諮り、全員一致で承認された。

4 審議事項

里見委員長が、告示後に議案第27号「平成23年三木市教育功労賞被顕彰者の決定について」を追加した旨を報告した。

里見委員長が、議案第26号及び議案第27号は、いずれも被表彰者の決定に関する議案であることから、三木市教育委員会会議規則第7条第1項ただし書の規定により、秘密会として審議することについて諮り、全員一致で了承された。

また、傍聴者がいないことから日程書の順序どおりに会議を進めることについて諮り、全員一致で了承された。

【議案第25号】三木市学校給食調理場の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について

- 井上教育環境整備課長が議案第25号について次のように説明した。

三木市の一般職に属する非常勤職員の任用等に関する規則の改

正に伴い、三木市学校給食調理場の管理運営に関する規則に規定するパート調理員の特別休暇制度を整備しようとするものである。

主な改正内容は、①産前休暇を6週間から8週間に変更するとともに、現在無給であるものを有給にする、②生理休暇の日数を2日と明記するとともに、有給にする、③育児時間を有給にする、④療養休暇について、30日までは有給とする、⑤看護休暇、短期介護休暇、夏期休暇を有給として新たに設ける、⑥その他の特別休暇の内容に、選挙権等公民権の行使と骨髄移植を加えようとするものである。

なお、看護休暇及び短期介護休暇は5日（看護、介護の対象者が2人以上の場合は10日）、夏季休暇は2日としている。

（委員）パート調理員以外の非常勤職員は、以前からこの制度が適用されているのか。

（事務局）週当たりの勤務時間が30時間以上、かつ、雇用契約期間が1年以上の非常勤職員に対して、平成23年度から適用されている。

このことについては、一般職に属する非常勤職員の任用等に関する規則で定められているが、学校給食パート調理員の休暇制度については、三木市学校給食調理場の管理運営に関する規則の中で定めているため、このたび改正が必要になった。

（事務局）学校給食パート調理員に対する制度の導入が遅れたのは、夏休みに給食がないため、1年を通じて勤務しているといえるかどうかの判断に時間がかかったためである。

（委員）8月は仕事がないのか。

（事務局）8月には給食はないが、研修の受講や調理場の清掃業務が5日あり、1年間を通じた雇用契約を結んでいる。

（委員）賃金はどのようになっているのか。

（事務局）時給制であるため、出勤に応じて支給している。

里見委員長が、議案第25号について採決を行い、全員一致で原案のとおり可決された。

里見委員長が議案第26号及び議案第27号を一括審査することについて諮り、全員一致で了承された。

【議案第26号】平成23年三木市スポーツ賞被表彰者の決定について

- 松村文化スポーツ振興課長が議案第26号について、次のように説明した。

三木市スポーツ賞は、毎年1月から12月までの1年間において、各スポーツ競技で優秀な成績をおさめた個人又は団体に贈る賞である。

今年度は、個人の部30人、団体の部10団体が、選考委員会において候補者として選ばれた。

賞には、優秀賞及び奨励賞があり、それらの基準は、優秀賞が、総合体育大会の県大会優勝、近畿大会3位以内、全国大会8位以内又は国民体育大会8位以内としている。また、奨励賞は、総合体育大会又は選手権大会等の大会において、県大会3位以内、近畿大会8位以内などとしている。

今年度は、個人の部では、優秀賞10人、奨励賞18人、団体の部では、優秀賞はなく、奨励賞10団体である。なお、そのほか、個人の部において特別賞2人を候補者としている。

【議案第27号】平成23年三木市教育功労賞被顕彰者の決定について

- 松村文化スポーツ振興課長が議案第27号について、次のように説明した。

このたびの三木市教育功労賞被顕彰候補者は、三木市教育委員会顕彰規則第2条第5号の規定に基づく体育・スポーツの振興に貢献し、その功績が顕著であるものである。

この規則の運用に関して別に顕彰基準を設けており、このたびの体育・スポーツの振興に係る被候補者の基準については、①体育・スポーツ指導者として功労が顕著なもの、②体育・スポーツの普及に10年以上貢献したもの、③体育・スポーツ団体の育成に10年以上貢献したもののいずれかに該当するものとしている。

今年度の候補者は13人である。

また、議案第26号のスポーツ賞と本件教育功労賞の表彰式を2月25日に三木市文化会館で開催する予定である。なお、この表彰式が終了した後、引き続き、スポーツ振興基金25周年記念事業として、柔道男子日本代表監督の篠原信一氏を講師に迎えてスポーツ講演会を開催する予定としている。

議案第26号及び第27号は、三木市教育委員会会議規則第7条第1項ただし書の規定により、秘密会として審議したため、同規則第32条の規定により、審議内容については記載しない。

里見委員長が、議案第26号及び議案第27号について一括採決を行い、全員一致でいずれも原案のとおり可決された。

5 その他

(1) 協議事項

【協議事項12】三木市教育振興基本計画（案）について

- 清水教育総務課長が協議事項12について、次のように説明した。

平成18年に改正された教育基本法において、国に対しては教育振興の方針や施策等に関する基本的な計画を定めることが義務付けられ、地方公共団体に対しても国の計画を参酌して、その地域の実情に応じた、教育振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努力義務が課された。

これを受けて、平成20年に国の教育振興基本計画が策定され、兵庫県でも平成21年に兵庫県教育基本計画（ひょうご教育創造プラン）が策定されている。

努力義務の規定ではあるが、三木市でも教育振興基本計画の策定に向けて取り組んでおり、このたび素案が固まったことから、この素案について協議をお願いするものである。なお、今後、本日の協議を踏まえ、所要の修正を行い、3月にはパブリックコメントを実施し、5月上旬には当計画を完成させたいと考えている。

計画の全体構成は、4つの大きな部分で構成している。

第1部「計画の基本的事項」には、「計画策定の主旨」及び「計画の位置づけ、期間」を記述している。

第2部「教育をめぐる現状と課題」では、「社会情勢の変化」、
「本市教育の成果と課題」を記述している。

第3部「三木市のめざす教育」では、「三木市教育委員会の教育目標」として、大きく、①「子ども一人一人の力を伸ばします」、②「魅力ある学校園づくりをすすめます」、③「人と人とのつながりを大切にする生涯学習をすすめます」の3つの重点目標に大別して記述している。

第4部は、この計画に係る資料を掲載するものである。

第1部の中の「計画の位置づけ、期間」では、上位計画となる国県の教育振興基本計画、三木市政の上位計画となる三木市総合計画との整合や、本計画の期間を平成24年度から平成29年度までの6年間とすること、更には、これまで、毎年策定していた三木市教育の基本方針との関係、この教育振興基本計画を基にした進行管理の実施などを記載している。

第2部の中の「社会情勢の変化」では、①少子高齢化の進展、②価値観やライフスタイルの変化、③高度情報化の進展、④グローバル化の進展、⑤家庭・地域社会の変化、⑥教職員の世代交代、⑦生涯学習社会の変化を、また、「本市教育の成果と課題」では、①確かな学力の育成、②豊かな心の育成、③健やかな体の育成、④一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進、⑤安全・安心で信頼される学校園づくり、⑥人権尊重の文化に満ちたまちづくり、⑦ライフステージに応じた生涯学習の振興と家庭教育の支援を記載している。

第3部の中の「三木市教育委員会の教育目標」では「『心豊かに 元気よく 学び続ける』人づくり」を教育目標に掲げ、前述の3つの重点目標を、それぞれ、5つ、4つ、7つの重点課題に分類してそれぞれに、主要施策、実践項目を記載した。

この三木市教育振興基本計画の策定に当たっては、策定委員会と幹事会を設けて作業を進めてきた。策定委員会委員は、教育長、教育部長のほか、生涯学習の事務を補助執行する市民ふれあい部長、総合計画及び予算などを所管する企画管理部長、校長会代表の別所中学校長の5人で編成されている。また、幹事会は、教育委員会、市長部局の教育等に関係する所属長で編成した。

(委員) この案の検討については、いつ頃から取り掛かれたのか。

(事務局) 教育委員会内部では、一昨年から取り掛かっていたが、幹事会での検討は、昨年の8月頃からである。

(委員) 国の計画は、平成20年に5年計画で作られており、既に見直しを検討される時期であるが、これら計画期間の整合については、どのように考えられているか。

(事務局) 市の総合計画の中の分野別計画において、教育も定められている。平成19年度に策定されたこの総合計画の期間が平成29年度までであるため、このたびの市の教育振興基本計画はその最終年度に合わせた。

(委員) この計画は、市民挙げて取り組むための指針として策定するものか、教育委員会の事務の執行のための指針として策定するものか、どちらに視点があるのか。

第3部の冒頭に「三木市教育委員会の教育目標」とあるため、教育委員会事務局のための計画のように思えてならない。

教育の振興は、市民皆に協力いただき、市を挙げて取り組まないと実効を期待できない。

(事務局) 計画決定した以上は、多くの市民の方に知っていただける取組が必要であると考え。ただ、現時点では、それをどのように進めていくかについては、検討しきれていない。

(事務局) この計画は、三木市の教育の方向性を示したものである。

(委員) この計画の策定には、市長部局にも関わってもらっている。教育委員会だけでは、進められない部分も多いため、市長部局はもとより、市民や団体に十分認識いただき、それぞれの分野の活動があつてこそ、実効、相乗効果が期待できる。

(委員) 子どもたちのために、このような取組を行いますということが書いてあるのは良いが、一方で、子どもたちに、誇りや自信、自分を愛する力などを持たせること、そして、それを外から与え

るのではなくて、子どもたち自身の力で身につけさせるような取組がほしいなと思いつつながら読んだ。

(委員) 今の委員の御意見は、まさに私が先程申し上げたことである。教育委員会事務局のための計画なのか、個人も団体も一緒になって市民挙げて進めるための教育振興理念、教育目標のようなものなのかということである。

おそらくこの計画は、教育委員会事務局のための計画ではないはずである。だから、先程申し上げた第3部の冒頭の「三木市教育委員会の教育目標」という、字句は不要ではないか。これがかえって、この計画を教育委員会事務局の計画であるかのように思わせている。

(事務局) 教育基本法では、地方公共団体が計画を定めるとされている。三木市教育委員会と限定せず、三木市としても良かったかなど考えている。ただ、三木市の教育行政を所管するのは教育委員会であるため、このような記述をしたものである。

(事務局) 3部のタイトルを「三木市のめざす教育」としているのも、その次の「三木市教育委員会の教育目標」という字句はなくしても良いように思われる。削除することも含めて検討させていただきたい。

(委員) 三木市の人口が今急激に減っている。この計画により、たくさんの人に三木市に住みたいと思ってもらえるようになり、この計画が三木市全体のまちづくりの一助になることを期待する。それぐらいの気概を持って、作成していただきたい。

だから、事務局用のマニュアルでとどまってしまうようでは残念でならない。

(委員) 目次の表記と本文内の表記とが異なるところ、同じ言葉でありながら、漢字が使われていたり平仮名が使われていたりしているところ、同様の字句で微妙に表記が異なるところなどは、統一されたい。

1つの文章が長いところは、読みやすいように、また、理解し

やすいように句読点で句切るとともに、表現にも配慮するなどしていただきたい。

個別の部分では、まず、「はじめに」の中の「この結果、（中略）の低下などへの影響が指摘されています。」という文章については、「この結果」を受けた文章であるため、「などへの影響」は不要である。その方が、理解しやすい。

同じく「はじめに」の中の「教育の一層の振興のための（中略）計画を策定し、教育の充実・向上をめざしてまいります。」については、「充実・向上をめざし」の前に、「更なる」か「一層の」を入れた方がよい。

（事務局）頭の部分に「一層の」という字句があり、重複するため、省いたものである。

（委員）私は、ある方が良いと思う。

4頁の「（2）価値観やライフスタイルの変化」の中に「自分さえ良ければ良いとする『個人主義』の広がり」とある。個人主義とは、個人の価値を尊び、その自由や独立性といったものを重んじるものであると認識しており、「自分さえ良ければ良い」というのは、利己主義であると考えてる。

（事務局）「自分さえ良ければ良いという、はき違えた『個人主義』の広がり」と、「はき違えた」を追加させていただきたい。

（委員）14頁の「（3）『豊かな心』の育成」の中に「人間尊重の精神を育む道德教育」とある。道德教育とは、社会の秩序を守るために個人が律すべき規範の教育であろう。「人間尊重の精神を育む」というのは、人間愛をいっており、ヒューマニズムや人道主義であり、道德教育には当たらないと考える。

（事務局）道德教育については、いろいろなとらえ方があり、特に、先人の生き方を基にして、自分の生き方を考える、または生き方を振り返ることは、学校教育では重要な柱であると位置づけている。そうしたとらえ方の下に、ここでは「人間尊重の精神を育む」という表現をしたが、この表現については再考させていただ

きたい。

(委員) 18頁の「(5) 特別支援教育の充実」の項目の中に「基本的な生活習慣や自己指導力」とあるが、この「自己指導力」とはどういうことか。

(事務局) 生徒指導において、自分自身の生き方や考え方を自分自身で振り返ったり、見つめる中で、自己を高めていくことを「自己指導力」といつている。

(委員) 18頁の「2 魅力ある学校園づくりをすすめます」の項目の中に「危機管理体制の確立を図ります。」、20頁の「(2) 教職員の資質・指導力の向上」の項目の中に「コミュニケーション能力のさらなる向上」という記述、また、22頁には、「(4) 安心・安全な教育環境の整備」の項目などがある。こうした子どもの安全を守る取組の中で、不審者への対応を含めて、先生方には、挨拶をしていただきたい。学校の敷地内に誰かが入ってきたら、先生は声をかけるべきである。挨拶をして、「どなたですか」と尋ねることは、自分の家ではすると思う。

挨拶をされると気持ちが良い。また、そのような環境ができてい学校では、不祥事は起こらないだろうし、校門を閉めなくても良い開かれた学校になると思う。

28頁の図書館の充実の項目の中に「在日外国人など様々なニーズに配慮した、誰もが利用しやすい図書館づくり」という記述があるが、三木市の図書館では、在日外国人のニーズにどのように対応されているか。例えば、洋書などの蔵書数は十分といえるか。今、外国語大学の学生が困っているのは、そうした洋書の専門書が手に入らないということである。例えば、トルコ語で書かれた教科書がほしいときなどは、トルコ大使館で手配してもらうことになっているようである。

(事務局) 語学のところに、韓国語、英語、フランス語、ドイツ語などの語学関係の書物があるが、外国の方が読めるような専門書は、極めて少ない。

(委員) 今後どのようにされようと考えているか。

(事務局) ニーズに対応した蔵書の充実を図っていきたいが、このような専門的な要求への対応としては、リクエストに応じて県立や県内の他の自治体の図書館との相互連携の中で、所有しているところを探し、そこから取り寄せることになる。

(委員) 外国籍の方や大学の教授など、洋書の専門書をたくさん持っておられる方がいらっしゃる。そうした方々が引越しをされる時や亡くなられたときなどに処分されることもあるので、寄贈していただいたり、譲っていただくなどの方法も検討いただきたい。

(委員) 14頁の「(3)『豊かな心』の育成」の「施策と実践項目」の中に、「多文化共生社会の実現をめざす教育の実現」という施策が挙げられている。

もちろん、そのことは大事なことであるが、一方で、自国の文化や歴史を教育するという視点をしっかりと書き込んでおいていただきたいという思いがある。郷土、伝統、文化といった小さな項目で記述はされているが、主要な項目の中でしっかりと掲げておくべきだと考える。

また、そのことを、20頁の「(3)教職員の資質・指導力の向上」の項目の中でも、教職員に対して、しっかりと国家観であるとか歴史観を身につけさせて、子どもたちに教育、指導できるような取組を項目として入れるべきだと思う。

この三木市教育振興基本計画は、教育基本法の規定に基づき、基本的な施策を計画、決定するものであることから、教育基本法の改正時に、どのようなことが議論されたかということはこの計画の中にしっかりと落とし込んでいくべきであると思う。

(委員) 日本人は外国に行って、自国の文化、歴史を説明できないと言われている。

外国でなくても、例えば、三木の方が、東京に行って、三木市の特産品や特性を説明できる市民が何人いらっしゃるか。そうしたことができる子どもを育てていただきたい。

このことは、やはり、この長期計画の中で、入れておく方が良いのではないか。子どもたちに教えていかなければいけない、そのためには先生に対して指導をしていかなければいけないし、先生にも研鑽を積んでいただく必要がある。非常に大事なことだと思う。そうしないと、いくらここで決めても、指導する先生が何も知らなかったら、あるいは知っていても、それは指導マニュアルにないから教えていませんでは、実効があがらない。

続けて、具体的内容に触れていきたい。

目次では、第3部の「3 人と人とのつながりを大切にした生涯学習をすすめます」となっており、本文では、「3 人と人とのつながりを大切にする生涯学習をすすめます」となっているが、これは、「した」か「する」か、どちらか。

(事務局) 「大切にする」である。

(委員) 2頁の「計画策定の趣旨」の中に「人格の完成」とある。

国の計画でも使われているが、「人格の完成」などということは、一生かかってもできない問題であり、言い過ぎの感がある。「人格の形成」の方が適切であると考えます。

3頁の「計画の位置づけ、期間」の項目の最後に、「進行管理を行う」とあるが、どのように進行管理を行うのか。

先程も申しあげたように、教育委員会だけではなく、市を挙げて進めていこうとする三木市の教育全体の進行管理をどのように行われるのか。この計画の策定に携わった幹事会を活用するのか。

(事務局) 現時点では、平成20年度から実施している「三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価」を、本計画の項目に沿って行う形に組み替えて、計画の進捗状況を管理したいと考えている。

(委員) 8頁の「(7) ライフステージに応じた生涯学習の振興と家庭教育の支援」の項目では、標題が「家庭教育の支援」となっているが、ここでも、教育委員会の事務局用の計画である印象を受ける。

家庭教育が進むように支援することも必要であろうが、家庭教

育は、家庭が主体となって、家庭でどんどんやってもらわないといけないものであるという思いがある。そういう意味で、「支援」という表現について一考いただきたい。

11頁の「(1) 幼児期の教育の充実」の「施策と実践項目」の中に、「保幼小の連携の推進」とあるが、この中には、私立の保育園、幼稚園は含まれるのか。

(事務局) 市内には、私立の小学校はないが、ここでは、公立、私立を問わず、保育園、幼稚園、小学校の連携を進めようということである。

(委員) 12頁の「(2) 『確かな学力』の向上」の「施策と実践項目」の中に「モジュール学習」という言葉が出てくるが、これはどういう意味か。

(事務局) これまで、1つの授業単位時間は、45分とか50分であったが、モジュールとはその授業時間を、例えば、10分とか15分など短い時間に分割したものである。1モジュール10分の学習を5回繰り返せば、50分の授業を1単位実施したことになる。

短い時間でも毎日反復して学習することで効率が上がり、確かな学力の向上につながる。

(委員) 13頁の、同じく「(2) 『確かな学力』の向上」の「施策と実践項目」の中に「校務の情報化の推進による教育の質の向上」とあるが、校務の情報化によって教育の質は上がるのか。

(事務局) 校務の情報化により、業務の軽減と効率化が図られ、子どもたちに接する時間をより多く持つことができたり、子どもたちに関する情報を教職員間で共有できるなど、より綿密に子どもたちに関わることができることから、教育の質の向上につながるといわれている。

(事務局) 用語については、他にも専門的な用語が出てくる箇所がある。頁の下など欄外に用語の解説等を付け加えたい。

(委員) 25頁の「(2) 地域・家庭教育力の向上」の項目の中に「家庭教育は、(中略) 社会的なマナーなどの資質や能力を身に着ける上で重要な役割を担っています。」とあるが、この表現では弱い、「家庭教育は最も重要である」と言い切っていたきたい。躰や善悪の判断は、学校教育ではなく、家庭でやるべきことである。

28頁の「(5) 市民ニーズに対応した図書館の充実」の「施策と実践項目」の中の「魅力ある図書館を目指した施設整備」とあるが、これは、新しい図書館の建設をいつているのか。そうであるならば、何を整備するのかということ、書ける範囲でよいから、もう少し丁寧に書いていただきたい。

29頁の「(6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成」の項目の中に「歴史文化遺産を保護するとともに、市民の誇りとなるような整備活用を図る」とあるが、これは、歴史・美術の杜構想のことをいつているのであれば、今、これだけ議論して、方向性を出していこうとしていつているのだから、はっきりとそう書いておいても良いのではないか。

30頁の「生きがいを実感できる生涯スポーツの振興」の「施策と実践項目」の中に「健康を維持する体力づくり」が挙げられているが、この健康について、本文にはふれられていない。生きがいという切り口のほかに、健康という切り口からもスポーツをしてほしいということ、是非どこかに入れておいてほしい。

そのほか、全編を通じて、固有名詞、引用文等に対する鉤括弧の使用や、文体を「です」調であるなら「です」調に統一されたい。また、同じ字句が短い文書の中に何度も重複して使われている箇所が見受けられるので、最終的には、その辺りの整理にも注意を払っていただきたい。

(2) 報告事項

ア 三木市放課後児童健全育成(アフタースクール)事業実施要綱の改正について

○ 清水教育総務課長が次のように報告した。

主な改正点は、①学校休業日のアフタースクールの開所時間を現行の8時から7時45分に15分早めること、②保護者負担金

の減免基準を「教育委員会が認めたとき」から「市民税所得割非課税世帯」として明確化すること、③広野アフタースクールの入所定員を60人から78人に増やすこと、④指導員の配置基準について、現行61人以上の児童に対して指導員5人であるものを、児童61人以上105人までを3つに区分し、指導員を最大7人まで配置できるようにすること等である。

(委員) 学校休業日のアフタースクール利用者はどれくらいいるのか。

(事務局) 現在500人を超える児童がアフタースクールを利用しており、そのうち土曜日の利用者は100人程度である。夏休み等の長期休業期間には、午前中だけ仕事をしている保護者の方なども利用されるので、例年、入所児童数は増える。

イ 学校教育課の主要事業等について

○ 穂積学校教育課長が次のように報告した。

定例校園長会を1月12日に開催し、12月に実施した「いじめの実態アンケート」の結果について報告した。いじめの件数は、昨年度に比べて半減しているが、今後更にきめ細かくみていきたい。

主要行事については、1月12日に第3回同和教育伝承講座を開催した。

今後の予定については、中学校スキー実習が1月15日から始まっており、2月9日には全8校が終了する予定である。また、2月10日に私立高校の入学試験、2月13日に公立高校の推薦入試が実施される。

そのほか、自由が丘中学校と広野小学校で学年又は学級閉鎖が発生している。今後の拡大に注意を払っていく。

ウ 教育センター・青少年センターの主要行事等について

○ 梶本教育センター所長が次のように報告した。

1月30日に「いじめ不登校を考えるフォーラム」と兼ねた「子ども元気力向上講座」を、また、2月24日に教育センター研究員研修会6グループの研究成果の発表会を実施する。

エ 文化スポーツ振興課の主要行事等について

○ 松村文化スポーツ振興課長が次のように報告した。

事業実施状況は、1月8日に、「三木市小学生駅伝大会・三木市民駅伝大会」と「三木市成人式」を実施した。成人式については、対象者が870人、参加者647人であった。

今後の事業予定は、1月21日から23日までの3日間、「学校園造形展」を、また、2月2日から5日までの4日間、「三木市展」を、いずれも、かじやの里メッセみきで開催する。市展の表彰式は、最終日の2月5日に予定している。

オ その他

(委員) 1月16日に、「子どもたちの芸術鑑賞事業劇団四季ファミリーミュージカル」を一緒に鑑賞させていただいた。事業はすごく良かったが、幼稚園児や保護者の席がいっぱいである一方、来賓席がたくさん空いていたので、来賓席の設定の仕方に少し配慮が必要であると感じた。

(事務局) その他、背の低い幼稚園児がちょうど通路のすぐ後ろの席になり、前の手摺りが邪魔になって見難かったといった声も聞いているので、併せて改善を検討したい。

(委員)

来賓の方も、連絡なく来られたり、出席すると言われておきながらいらっしゃらなかったりするの、本当に困る。

だから、案内文書に「御出席いただける場合は、いつまでに御連絡ください、御席を用意します。」という一言を入れて案内する。そうしておいて、事前の連絡なく来られた人には、一般席が空いていればそこに座っていただく、空いてない場合は満席である旨を伝えてお帰りいただく。本来の対象者を大事にさせていただきたい。そのような方針で対応いただきたい。来賓席が大きく空いているような状況にならないように配慮いただきたい。

(3) 次回定例教育委員会の開催日時について

里見委員長が、次回の定例教育委員会の開催予定日時について諮り、

平成24年2月15日（水曜日）、午後2時00分から開催することを決定した。

6 閉 会

里見委員長が、平成24年1月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。